

日本のプレゼンスを高める

2020年夏、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、パリへ赴任してきました。

こちらでは、日本の地方自治体の国際化を支援するため様々な活動を行っています。調査研究、情報発信に加えて、フランスでは、日本食を始めとした日本文化や日本へのインバウンド観光の関心が高い中、日本の伝統工芸品や食品に加え、地方の魅力をPRすることも行っています。総務省が所管する地方自治関連業務もありますが、その枠を超えて、欧州と日本との連携強化に関わる幅広い業務を分野横断的に担当しており、日本の存在感を高めるという大きな視点で日々業務に励んでいます。

今回の赴任は、大使館に勤務する夫と、子供2人を伴って来ています。夫も、フランスにおいて日本の農産品の輸出促進に取り組んでおり、フランスで日本のプレゼンスを高めるためには、という大目標を夫婦で共有しながら、時に協力し合いながら仕事を進めています。

前職は政治資金制度というドメスティックな仕事、そして今は日仏友好関係を強化する仕事ということで、総務省入省以来、まさに「幅広いフィールド」で挑戦する機会を与えてもらい、専門知識や語学力はもちろん、様々なものの見方や価値観など多くの学びを得ることができていると感じます。

コロナ禍で国際的な人の往来が難しい今こそ、海外に拠点を置いている意義は大きいと感じています。日本のため、地方自治体のため、コロナ終息を見据えたタマ込めに引き続き尽力していきたいと思います。



地方自治体関係会議での昼食時

自治体国際化協会パリ事務所調査役

神林 真美香

KAMBAYASHI Mamika

平成 17年	4月	総務省自治税務局企画課
	8月	千葉県総務部市町村課
平成 18年	4月	同 総務部財政課
平成 19年	4月	総務省行政管理局行政情報システム企画課
平成 21年	7月	自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐
平成 23年	7月	総務省自治税務局都道府県税課
平成 24年	4月	同 自治大学校研究部員
	12月	産休・育休
平成 26年	4月	同 統計局統計情報システム課課長補佐
平成 27年	7月	産休・育休
平成 28年	4月	自治大学校教授
平成 29年	5月	総務省自治行政局選挙部政治資金課政助成室課長補佐
令和 元年	7月	同 自治行政局選挙部政治資金課課長補佐
令和 2年	8月	現職

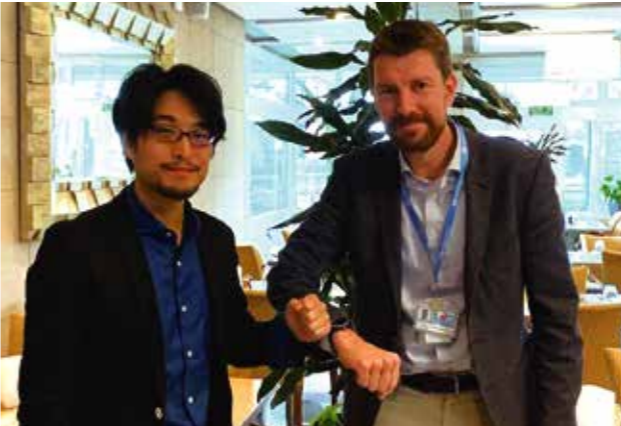


鳥取県令和新時代創造本部政策戦略監総合統括課長

眞木 伸浩

MAKI Nobuhiro

平成 25年	4月	総務省自治税務局市町村税課
	8月	山形県環境エネルギー部危機管理・くらし安心局危機管理課
平成 26年	4月	同 企画振興部市町村課
	11月	内閣府政策統括官(原子力防災担当)付参事官付主査付
平成 27年	4月	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課
平成 29年	4月	総務省自治財政局調整課
平成 30年	4月	京都府井手町理事 兼 地域創生推進室長
令和 2年	4月	総務省自治行政局地域政策課マイナポイント施策推進室課長補佐
令和 3年	7月	現職



共同議長を務める英国代表部アンドリュース書記官と

在ジュネーブ国際機関日本政府代表部参事官

永田 真一

NAGATA Masakazu

平成 15年	4月	総務省採用
	同	人事・恩給局総務課
	8月	奈良県総務部市町村課
平成 17年	4月	総務省自治行政局行政課
平成 19年	7月	同 行政管理局主査(独立行政法人、外務省・防衛省担当)
平成 21年	7月	フランス留学(モンペリエ第一大学)
平成 23年	7月	総務省行政管理局企画調整課行政手続・制度調査室課長補佐
平成 25年	4月	内閣総理大臣官邸国際広報室参事官補佐
平成 27年	8月	総務省行政管理局企画調整課課長補佐
平成 29年	4月	内閣官房内閣人事局参事官補佐(金融庁・財務省担当)
令和 2年	7月	同 企画調整官(女性活躍促進・ダイバーシティ担当)
令和 3年	7月	現職



太宰府市総務部理事

村田 誠英

MURATA Takahide

平成 20年	4月	総務省採用
	同	行政管理局管理官付
平成 21年	4月	内閣官房副長官補付
平成 23年	4月	内閣府地域主権戦略室
	8月	同 地域主権戦略室主査
平成 25年	2月	総務省行政評価局政策評価官室評価監視調査官
平成 26年	5月	同 行政評価局政策評価課専門官
平成 27年	8月	同 行政評価局企画課課長補佐
平成 28年	6月	同 自治行政局地域政策課地域情報政策室課長補佐
平成 30年	10月	総務大臣政務官秘書官
令和 元年	9月	総務省政策統括官(統計基準担当)室統計企画管理官室高度利用専門官
令和 2年	9月	内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室参事官補佐
令和 3年	7月	現職

もし総務省から国連の「マネージャー」に転生したら

ジュネーブに来て半年。総務省派遣の外交官として、主に国際機関の適正運営を監督する仕事をしています。入省して2度目の欧州。仕事は英語ですがスイスではフランス語が通じるので、仏留学経験に助けられています。

歴代の先輩方のおかげで、ジュネーブの外交団の中で一目置かれるポスト。私も国際会議で価値ある意見を言ってリードしたいものです。その頼れる相棒こそ、総務省で大事にしてきたスキル:各省庁・自治体に寄り添う仕事から得られる課題解決力。面白いことに、人間集団における「課題」というのは、国の内外や洋の東西を問わないもので、組織課題のマネジメント力を国際機関向けに少しアレンジすれば、総務省職員ならではの国際貢献力に転生可能と考えています。

かくいう私の職歴は、行政共通法制、各省の業務改善、定員配分、官邸による戦略広報、公務員のジェンダー平等推進。国家行政の経営課題に向き合ってきた20年と言えます。

さて、岸田総理は「聴く力」の重要性を説いています。国民に寄り添い、悩みや苦しみに想像力を働かせる。行政組織の課題は、国民の課題でもあり、逆も真なり。そのことを肝に銘じ、総務省も進化を続けなければなりません。

国家行政のマネジメントを国民目線で支え、グローバルにも活躍できる総務省。推せます。気軽に説明会にお申し込みください。(海外に興味があり、就職活動を懐かしんで読んでいる若手職員の皆さんもお話ししましょう。)

令和の都、太宰府市にて

縁あって、令和3年7月から太宰府市に赴任しています。1,741ある市区町村の中でもトップクラスの知名度を誇る太宰府市は、近年、様々な自治体ランキングで上位に名を連ねることも多くなか、とりわけ、「令和」という元号の由来となった梅花の宴が開催された地としても記憶に新しいかと思えます。そんな太宰府市も決して順風満帆というわけではありません。例えば、新型コロナウイルス感染症対策といった全国共通の課題に加え、国際的な観光都市ゆへの混雑緩和対策といった固有の課題も有しているところ、私は主に財政、企画、DXといった切り口でその対応に当たっています。

具体の行政課題に目を向けてみれば、そこには理想と現実の乖離、やりたいこととできていることのギャップがあり、これらをいかに埋めていけるかが行政官として腕の見せどころだと思います。様々な制度を根本から企画する霞が関と国民に最も身近な行政機関である市町村では見える景色や感じる問題意識も異なっており、行政官として、その両方を経験できることは何物にも代えがたいと感じています。

太宰府市に赴任するまで、私は政策評価制度改革やデジタル改革等に携わってきました。総務省では、このような行政運営の要となる制度の企画立案に携わる機会が多くあります。時に困難に直面することもありますが、その分働き甲斐のある職場です。より良い未来づくりに向け、皆様と働く日を楽しみにしています。